

〈〈ちらっと台本公開!〉〉

■ 明転。大学の学生ホール。

真紀が詩織に熱弁を奮っている。

真紀

「それでね、意外と谷川俊太郎が身近にいたっていうか。例えばさ、スイミーって絵本あるでしょ。

それじゃあ、僕が目になるよって小魚が集まって大きな魚になる。

あれ、外国の絵本なんだけど、翻訳してるのが谷川俊太郎なの！」

詩織

「へえー、そうなんだ！」

真紀

「そうそうそうそう！」

翔・真紀

「あと」

■ セリフの途中で翔が登場。

翔

「ジブリの映画で『ハウルの動く城』ってあるよね？」

あれのエンディングの歌は谷川俊太郎が作詞してるし、

昔は鉄腕アトム之歌、あの、そらそらをこらえてーラララ、の、

あれも作詞、谷川俊太郎。あと、あとスヌーピーの絵本の翻訳も

してるんだよ」

詩織・真紀

「本当に、知らなかったところでお世話になってるんだね」

翔・真紀

「そうなの！で、改めてちゃんと詩を読むと、すっごくこう、

考えさせられるというか、でもたまにドスツと心に

刺さるといふか！」

真紀・詩織

「え？なんでー、谷川俊太郎にハマりだしたの？」

翔・真紀

「え？なんで？」

「ああ、国語の授業とかで出てこなかった、

それで興味湧いて、そこから」

真紀

「へえ」

翔

「なんかさ、知らず知らずのうちにお世話になってるんだよ、

それくらい実は日常にいる詩人で」

真紀

「うん」

翔

「なんていうか、心に残るって表現より、引っかかるんだよね。

ちよっとモヤっとするんだ」

真紀

「ほー」

翔

「あ、学校で歌うような、合唱曲とかも作詞してるし、

グツとくるよね」
「っていう人と、ネットで知り合って、そこから」
「あ、そうなんだ、ネットか」

■ 徹が登場。翔はいつの間にかいなくなっている。

徹 「あ、お疲れ、」
真紀 「あ、お疲れ」
徹 「あ、真紀さあ」
真紀 「ちよつと、レポートだったら自分でやってよ」
徹 「いや、忙しくてさあ、ちよつとでいいから」
真紀 「忙しいって、また旅行行ってたんでしょ」
徹 「旅行じゃないよ」
真紀 「じゃあ、何？」
徹 「それは、あれだよ、ライフワーク！ほらっワークってついてるから仕事だよ！」
真紀 「あっそう」
徹 「詩織、レポートの内容ちよつとだけ見せて」

■ 徹が持っているスケッチブックを見る真紀。

詩織 「私は別な研究があるから、ちよつとだけ時期ずらしてもらって、まだやってない」
徹 「え」
真紀 「3年以内に起業！」
徹 「ちよ、大事に扱えよ」
真紀 「(表紙を見て) 夢ノート」
徹 「そう」
詩織 「夢ノート？」
徹 「人に夢書いてもらって、集めてるっていうか」
詩織 「大人になりたい」
徹 「あ、これは、グアテマラのこんな小さな女の子が覚えてたの字で書いてくれて」
詩織 「へえー」
徹 「行った先でこういう夢持つてる人に、書いてもらってる」
詩織 「いいね！」
徹 「そう？(嬉しい)」
詩織 「なんでこういうの始めたの？」
徹 「なんで？理由は…理由は、特にないけどさ、やりたいから。真紀、なんか夢書いていいよ！」

■ 真紀、夢ノートを真剣に見ている。
夢のない自分にとっては眩しいノート。

徹 「真紀？」
真紀 「ん？ええ？」
徹 「ほら、せつかくだから書いてよ！」
真紀 「……私は………ここには書かない！」
徹 「書けばいいじゃん！」
真紀 「うるさいなあー、はい、レポート」

■ 真紀はレポートを差し出す。

徹 「お、サンキュー」
真紀 「将来のこととか考えてんの？」
徹 「(レポートに目を通してながらテキストに) まあなんとかなるでしょ」
真紀 「なんのために、大学院まで進学したんだろ」
徹 「なんでだろうね、院出てるって給料とかいいからかな」
真紀 「確かに」
徹 「あとは研究のため？」
真紀 「徹、研究してないじゃん！」
徹 「真紀もしてないじゃん！」
真紀 「私は、人並みにはしてるから」
徹 「人並みかあ」
真紀 「何よ？バカにして」
徹 「いや、人並みにできるってうらやましいなって」
真紀 「どこがよ」
徹 「だって平均点は取れるじゃん！」
真紀 「平均以上は取れないって意味？」
徹 「そうじゃないけど、真紀って何でもそつなくこなすよね」
真紀 「可もなく不可もなく、私は普通ですよ」
徹 「……うーん、確かに大学院来た割りに
そこまで研究研究、勉強勉強してしてるわけじゃないけど、
人生の夏休みのものの延長戦ってことでいいんじゃない？
とりあえず、レポート助かるわ。ありがと」

■ 徹、捌ける。

真紀 「徹、大丈夫かな？」
詩織 「どうなんだろうね」

真紀 「本当何考えてるかわかんない」
詩織 「ね」

真紀 「詩織はやっぱ研究？」

詩織 「うん、このまま大学に残りたいなああって感じ」

真紀 「まあ、それはそれで大変だよねえ」

詩織 「うん、先が見えないからね」

真紀 「よくできるよね」

詩織 「好きだからね」

真紀 「好きかあ」

詩織 「今やってる研究、日本でやってるの私だけなの」

真紀 「え！？すごいじゃん」

詩織 「はたから見たらそうかもしれないけど、実際は、
共同でやってくれる人も見つからないし、

この先、大学に残っていけるのか不安は不安だよ」

真紀 「え？詩織は大丈夫だよ」

詩織 「うん、だといいんだけどね、悩むわあ」

真紀 「悩むよねえ。まあ、私たち、徹よりは、色々考えてる」

詩織 「じゃあ、研究室戻る。真紀は？」

真紀 「あー、私はもうちよっとここで」

詩織 「そう、じゃあまた！」

■ 詩織、捌ける。

<<<「」まび〜>>>

ほかのシーンは劇場で目撃しましょう！ 公演の詳細は「遊戯祭」で検索！